

第5回施設建設選定部会（第1部会）

招集年月日	平成19年7月24日（火）					
招集場所	南部総合福祉センター 2階会議室					
開会時間	午後2時00分					
閉会時間	午後4時20分					
出席員 及び 欠席委員 [出席委員 14名] [欠席委員 0名]	委員 番号	氏 名	出 席 の 別	委員 番号	氏 名	出 席 の 別
	1	赤嶺要善	○	9	大城秀雄	○
	2	与那嶺紘也	○	10	城間精善	○
	3	伊集守和	○	11	知名定一	○
	4	津嘉山齐	○	12	照屋義実	○
	5	宮平正和	○	13	山口修	○
	6	上田規子	○	14	諸見里米子	○
	7	川井義喜	○	15		
	8	大城順子	○			
会議に出席した 事務局の職・氏名	事務局長	玉寄長市				
	室長	山城匡				
	主任	知念正樹				
	主事	國場篤志				
	広報	名嘉山博				
その他会議に 出席した者						
会議に付した事件 及び議決内容						

第5回施設建設選定部会（第1部会）

会 議 録

【報告事項】

1. 県内外視察研修報告……………資料－1

・部会委員視察研修報告

2. 8月のスケジュールについて……………資料－2

【理事会との合同会議の開催】

日時:平成19年8月9日(木)

14:00～16:00 第1部会会議

16:30～17:30 理事会・第1部会合同会議

18:00～ 懇親会

1. 視察の感想・意見等

①委員

- ・視察前の勉強会から視察研修までの期間が短い。視察する施設を比較する為にも、もう少し資料を勉強する時間が欲しい。
- ・浦添クリーンセンターの表面溶融は、電気式と比較して灰が多いと聞いているので、どうかと思う。那覇・南風原は見本にして行きたい。従来型のシンプルな施設であるので安全かと思う。
- ・一番関心があったのは処理施設（直接溶融システム）の技術が進んでいる事で、マグマを見る事ができて感動した。
- ・サザン協への要望として、①ごみ焼却炉の機種と技術の評価一覧表を出してもらって、それで評価して行きたい。②焼却施設の設計や運営に関わる法規制など。③バグフィルターについても一覧表を出してもらって評価して行けたらいいと思う。あと、処理施設では1,800℃～2,000℃で完全に処理しているのでダイオキシンは精製しない。そのあたりは心配していない。排水処理に使用する薬品の種類や用途を公開して行きたい。
- ・サザン協がスタートしてから、方向性が見えない。今後の目標としては最終処分場の目的がはっきりしている。ゼロエミッション型の最終処分場にするのか、埋め立てて多面的広場として使用していくのか、はっきり目的を決めて最終処分場も造っていかねばいけなないので、何も決めないで被覆型にするのはちょっと違うと思う。最後には経済的な問題が関わってくるので、このあたりも検討しながら勉強して行きたい。

②委員

- ・6箇所視察して共通して思ったことは、決して迷惑施設ではないという事。過去は迷惑施設と言うのが前提で話し合いが行われていた。私達は、各市町のトップを始めとして決し

て迷惑施設ではないと確信をもって事を進めるべきだと思う。最初から迷惑施設、振興費ありきでいくと、那覇市のような形になって余計な金を使わざるを得なくなる。溶融炉にしる、処理場施設にしる5年もすれば一気にコストが上がる。そういったことも鑑みて設備投資をせざるを得ない。また、南部の規模からすれば発電施設を造る為のごみの量は足りないという事ははっきりしている。その場合、用地選定や機種選定も見直す必要があるのではないかと思うと同時に、糸満市の問題も将来的に考えて、感情的な問題、しこりも確かにあるが、糸満市民の事を考えれば、そういった事も視野に入れてサザン協は最終処分場の建設をしていくべきだと思う。

- 機械の問題については、機会は最初から壊れるものと思っている。壊れた経験の無い所の方が余計に危ないと思う。過去の事例を見ても一旦事故を起こしたからといって除外する必要は無いと思うし逆にメンテについてもメーカーは真剣に対処すると思う。処理施設によってもコストのかかり方がずいぶん違う。燃料の問題もある。最初に入札で仮に安くなったとしても将来逆にコスト高なるという可能性も出てくる。那覇・南風原や浦添との連携も含めて考えていったほうがいいのかとも思う。
- 今は住民に対する説明が不足しているというのはもう当てはまらない時期に来ていると思う。用地が決まれば遮二無二やらざるを得ない。トップは腹をくくってやってもらいたい。話し合う時期ではない。あと3年しかない。最終的には強制代執行もやらざるを得ないと思う。一旦決めたら後には引かず、多少のトラブルは許容した上で取組んでいくべき。

③委員

- 百聞は一見にしかずである。迷惑施設ではない。環境の浄化センター（クリーンセンター）というイメージであった。以下ポイントを挙げる。
 - ① 環境への影響、負荷、安全性、機種によって違う。新潟の地震では（原発事故で）東京電力は想定外だったと言っている。それらを含めてどういう風に合意形成をしていくかが一つのポイントになる。
 - ② ランニングコストの問題。機種、燃料方式等を精査しておかないと、足かせになる。スケールメリットを考えると、糸満も抱き込んだほうが南部広域の将来ビジョンに合致する感じがする。感情のもつれ等もあったと思うが、懐を深くして（糸満市を）抱き込む事も大事ではないか。
 - ③ （機械の）操作の難易度。安全性が第一ではあるが、一番どういった機種が職員が対応できるのか。
 - ④ 現在の中間処理施設とのリンクをどうするか。最終処分場ありきですすすめているのか。玉城の施設（島尻清掃）が耐用年数が切れるということで白紙の状態に戻してスタートしていくのか。そこらへんも精査する必要がある。知恵を絞って後悔のないように進めるべきである。

④委員

- 7月10日の理事会の中で火葬場・し尿処理施設を含めて5市町の均衡ある広域的配置を勘案するとの話し合いがなされている（新聞記事より）。南部地域のごみ処理施設の一元化であるが、南部広域行政組合と、東部清掃施設組合、島尻清掃組合の三組合を統合した新組織でもって事業主体とすると確認されているが、そこらへんが意味が理解できない。

現在の清掃施設組合を解散して一つにするという事か。将来糸満も含めて最終処分場まで繋げていく話なのか、それとも現在の5市町で新しい事務組合（組織）を立ち上げて（施設を）造っていくのか。建設地についても、一市町に迷惑施設を複数造らないと確認されている。それがはっきりしているなら、おのずと場所の選定も分かってくるのではないか。

- ・サザン協の柱がぐらぐらしているのではないか。サザン協で広域の議論ができるのか。南部で目指すべきゴミの問題を住民が見えるようにするべきではないか。
- ・内部での矛盾を抱えてはいるが、スタンスとして一定の方向性を示しておく必要がある。いざ問題が起こったときに後手に回らないか、ビジョンとして第1部会は考えを固めておく必要がある。

⑤委員

- ・糸満は避けて通れない問題で、今後出てくると思うし、糸満を含めた考えを持っておくべき。法的にどうかではない。南部は一つ。ゴミ環境と言うものは一緒である。糸満も抜けてはいないので権利はまだある。基本的な事から整理していきたい。（広域化について）理事会は第4部会から答申を受けての決定である。部会の決定が何も無い中で理事会が決定すること自体組織運営の仕方に疑問が残る。サザン協では提言しかできないなら糸満を含めて行政組合もしくは市町村会の中で（ゴミ処理施設等の広域化の）検討委員会を立ち上げて答申をして答を出していく仕組みが無いといけない。部会委員でさえ分からない色々なことが新聞で出てくる。どういう組織でやるのか権限も含めて基本的なことから進めて欲しい。南部のゴミ問題はゴミ処理計画から入るべきだと思う。基本計画の中で議論をして計画に基づいて処分場なり焼却施設の統合がでてくる。処理計画があってサザン協は動くというのが本来だと思う。
- ・研修において、係争中も着工している所もあったが、各関係者の努力、想定した事業の取組み方はすごいと思ったし、ここ（南部）の場合は少しでも反対の声があればやめようということなので、ギリギリまで用地の選定、機種を選定もそうだが、きちんと理論武装してみんなで情報を共有して決めたらみんなでやっていく。決して迷惑施設では無いと。各市町ごとに推進組織を作って集落入りしないと駄目だと思う。
- ・施設については余熱利用、ゴミのエネルギーは無視してはいけない。発電施設を造るには糸満を入れないと駄目だと思う。一時ストックできる位の処分場は最低限必要だと思う。ゴミが減ってもコストは変わらない。機種を選定は第1部会の責任だが、古賀工場の場合は学識経験者、焼却技術者、行政廃棄物プラントの経験者等、専門家を入れている。この部会の中でも現場の技術者あたりの専門家を呼んで勉強会しながらやりたい。用地も機種選定もこの部会だけだと責任が重いと思う。維持管理の問題は保証期間が切れたら5億円程度増えると言っている。構成市町は維持費や、起債の負担まで含めて財政計画を立ててないといけない。反対は覚悟の上できちんと対応できる体制をとっていく。住民も一緒になって取り組む体制を作らないといけない。（住民をバックに取組んでいく）合意形成の中では振興策が効いたと思った。どうしても振興策は合意形成の上で重要視されると思う。ゴミの資源化、分別徹底等、ゴミ減量から手始めにしなければいけない。取り組みについては、構成市町の環境担当者は、処分場問題、サザンクリーンセンターの推進については

逐次問題点を報告して情報を共有する。そうしないと地域に説明ができない。市町の職員、副長あたりが出向いて説明できる体制に今後は持っていけないといけない。

⑥委員

- ・ **浦添クリーンセンター**：燃料に灯油を使用していたが、灯油のコストが上がって現在はA重油を使用している。有明広域組合の担当者に聞いたら、黒煙が出るし環境に悪いとの事。財政難になった場合灯油からA重油に燃料を変えらると思うので灰溶融やガス化溶融炉は避けたほうがいい。生ゴミは塩分が含まれているので、磨耗が早くなる。トラブルとしては灰溶融炉でメタルが固まりスラグの通り道を塞いだ事や飛灰を含んだガスの通り道が詰まった事があった。下水道汚泥は肥料にしているという事だった。
- ・ **那覇・南風原クリーンセンター**：年間6億円の維持費が気になった。委託費が2億4千万円、薬剤費関係が2億円。(電気・スラグ・メタルの)売却益が1億9千万円あるとの事。焼却炉にはバグフィルターがあり水銀等を集めているが、灰溶融炉にはバグフィルターがないので空気中に飛散するとの事。
- ・ **エコパーク宗像**：人口9万5千で維持費は10億円、起債の変換を合わせると年間16~17億の費用がかかっている。保証期間が満了するので1億程度の維持費の増加が予想される。屋根付の処分場の期限が5年しかない。5年しか期間がなければ処分場を考えないほうがいいと思った。建設当時の職員がいなくて、当時の話が聞けなかった。視察の時間が1時間半では短い。下水道汚泥は燃やしている。
- ・ **エコロの森**：宗像工場とは兄弟工場である。人口が13万6千人で維持費が宗像と同じである。起債の償還を合わせると23億円かかっている。保証期間終了後は3億程度維持費が増加されるとの事。気になったのは鉄やアルミが磨耗を早めたり、コンベアのトラブルの原因になるという事。施設導入の際には分別を考えないといけない。
- ・ **有明広域行政事務組合**：飛灰や下水道汚泥を肥料にしている。処分場も設置してない。維持費は4億円(はっきり分らないとの事)15年間の定期点検、法定検査、消耗品などの費用を(いくらまで)条件を出して、受け入れたメーカー、日立造船(株)に決定したとの事。条件を出して会社を選ぶのも一つの方法ではないか。ここも時間が欲しかった。
- ・ **クリーンコアたかざき**：選定された用地は町の中の荒地、くぼ地であった。何とかしてほしいと言う地域の希望があったから住民との合意形成がスムーズで、問題はなかったようである。合併によって人口が13万人から17万人になった。都城市の処分場が新たに使えるようになって、そこに近い所はそこに持っていくので結局は埋立量は減少している。
- ・ **まとめ**：視察の時間が短すぎた。生ゴミは家庭で生ゴミ処理機で処理する方法をとって欲しい。下水道汚泥も肥料にして欲しい。処分場を造っても5年や10年で一杯になるのではどうかと思う。ごみ分別や肥料化でゴミを減らして全て資源化という方法を取った方がいいと思う。みんなが嫌であるのでやっぱり迷惑施設と考えたほうが良いと私は考える。溶融炉は歴史が浅いので最終的に処理施設決定前に大学の先生の講演などもやってもらいたい。桜井先生に講演してもらいたい。

⑦委員

- ・ いずれも施設は立派であったし、迷惑施設という気はしなかった。
- ・ サザン協では時間がない。今は①「ガス化溶融炉+最終処分場」、②「ガス化溶融炉のみ」、

③「既存の焼却施設+灰溶融+最終処分場」、④「焼却炉+灰溶融」の4つのケースが考えられると思う。その中でサザン協が与えられている条件の中では選択肢は③番目ではないかと報告している。そういう印象で今回は視察をさせてもらった。

⑧委員

- ・今やるのは最終処分場なのか、溶融炉+最終処分場なのか、焼却まで入れての施設の建設なのか、疑問に思う。既存の焼却施設（糸豊、東部、島尻）の最終処分場だと認識していた。施設を見学したときに焼却炉、溶融炉を一生懸命時間を割いて、最終処分場のほうは簡単にいったような気がした。以前はごみ減量をやっていて、絶対ごみ問題はごみ減量だと思っていた。（ゴミを）少なくしたら大きい施設を造らなくていいと思っている一人だった。生ゴミでも問題になっているが、ゴミというのはゴミに出すか、資源にするかとあるが、豊見城も3種類から5種類分別やったときにゴミがすごく減った。最近は自分の住んでいるマンションのゴミ置き場を見ても去年からぐっと増えてきているのが分かる。燃やせるゴミの中に瓶や缶が入っているのもあって、これはまずいなと思って、南廃協でも口酸っぱく言ってきた。（南廃協の）委員はだいたい各市町村の係長が入っていた。その方々がごみをあまりにも知らなかったというのがショックだった。この前那覇・南風原や浦添の施設を見て素晴らしいと思った。東部に行ったときは工事中という事で施設は見る事が出来ず説明だけを受けたが、サザン協で溶融とか焼却炉の問題が出てる中でもう少し修理を待てなかったのかと思った（修理に大金をかけていると聞いたので）島尻清掃ではゴミの姿を見ることが出来た。焼却炉に入っていたゴミにバインダーが入っていた。そうすると残渣がどういう姿になるか、最終処分場だけじゃ駄目で溶融炉も考えないといけなかったし、サザン協ではどの位の予算があるか分からないが、私たちは施設のどこからどこまでやるのか見えなかった。宮崎では処分場の職員に周辺に住む人々の反応を聞いたら、道路も広くなって色々施設が良くなって、反対はないと言われた。ああいう施設は迷惑施設という言葉は絶対使ってはいけない。迷惑施設というのは沖縄では基地だと思う。基地は迷惑施設であり、なくてもいい問題だ。しかし、ゴミ問題に関しては、出さない人はいない。もう少しきれいな言葉で思いやり施設とかに変えられないものか。豊見城にある火葬場、あれは迷惑施設と言うのか。火葬場というのは私たちが必ず行くところであり、そういうのは迷惑施設ではなくて、なければいけないもの。それをどうするかということを考えないと迷惑施設と言ってる人たちはただ、そこにゴミが来るから駄目だとか。（候補地が絞られてきて）長嶺中学校の近辺が入ってきた時、その校長やPTAの方が反対運動で出てきた。一日に何台もダンプが行き来したら子供達がどうのこうのとかって言っていた。島尻清掃組合で残渣はどの位出るのか聞いてみたら一日にダンプ1台弱と言われた。そういうのも分からないで、最終処分場だからダンプが何十台も通るといような。そうであれば、例えばガードレールをちゃんとして子供たちの通学路を良くするとか、道路のでこぼこを平坦にするとか、信号をつけるとか、そういうのに予算をつける。そこから通るのはみんな嫌ですよ。だけど嫌では通れない問題。だが、焼却炉や溶融炉が素晴らしいと言われても、これは金さえかければいくらでも出来ると思うが、那覇市でも平成元年には修理が8千万出るといっていた。だから（新しいのを）造らないといけない。それで反対運動されたときに市長は南風原に何度も足を運んでいる。私はこの委員になっただけ

ど反対者の所に一度も伺った事がなかった。どういうことで反対なのか、その反対を取り除くことが出来なかったのか。本当に迷惑施設と言ってる人たちが年間全然ゴミを出さないのかというのが気になったし、豊見城には迷惑施設がないからいいねと言われたけど、迷惑施設はありません。思いやりの火葬場がありますと。自分達がどこに造ればいいのかとなったときに、お願いするところは涙流して、自分の血も流しながら、お願いしますということができる位になっておかないといけない。今回いい施設を見せてもらったけど、少しでもあれに近くなるように反対の人を説得できるくらい勉強して欲しいと思った。

⑨委員

- ・焼却、資源化、灰溶融、スラグ化と一連の流れがあったが、これをサザン協にすぐ導入できるかどうか考えたが、南部には3つの（焼却）施設がある。東部は現在基幹改良をやっている。今回見てきた施設は一つの清掃工場全てを成し遂げている。しかし、現在（南部は）別々の施設があるだけに、どういった機種を選定し、それを最終処分場というか、今回見た施設を造ることが本当に必要なのかどうか疑問を感じた。東部（島尻）のほうでは焼却をして焼却灰を灰溶融に持っていけば特に問題ないと思うが、施設を別の所に造るとなると、焼却した熱利用（エネルギー）を活用できず一旦焼却された灰を冷やしてそれを運搬し、さらに熱を与えて灰溶融してスラグ化するという非常に無駄な所があるのではないか。出来れば一つの施設で南部全てやった方がいいと思うが、現実には3施設があるだけに、方法としてどの方がいいか考える所がある。まずはエネルギーをどう活用するか。それだけの熱量があるので更に温めてスラグ化するのももったいないと思う。最終処分場だったら財政的にもかなり有効だと思う。しかし、現代はリサイクルという意味で路盤材などに使われるものを全てリサイクルしたほうが効果的ではないか。この施設を造るのに多額な財政的な負担が伴っていて、更に5ヵ年の（保証）期間が過ぎれば維持管理費でも相当の財源が使われる。出来るだけ財政の負担を軽くするという意味でも、糸満市も参入してもらい一緒にやっていく体制がまずは必要ではないか。課題はあると思うが、あれだけの大きな施設を造って15年20年稼働させて、それを取壊して、更に造っていくという状況になるわけで、やはり多くの市町村が入って財政負担の軽減を図るべきではないか。

（研修で）見て感じたことは分別。ペットボトルでもきれいに搬入されていた。住民意識もあっての事だと思う。今5市町では分別の方式も統一されていない。まずはそういったものを統一して、各市町村ができる事をやったほうがいい。ただ、結論からすると今回見た施設をサザン協でやったときに色々な課題が出てくる感じがする。

⑩委員

- ・県内、県外とも素晴らしい施設である。必要な施設であるのでどうしても造らないといけない。一番の課題が残渣処理の問題、3施設から出てくる焼却灰をどうするか。倉浜のほうでは期限をつけて4年後には受け入れないという条件付での受け入れであるので、それをどうするかが喫緊の課題である。施設を見てこんな素晴らしい施設が出来るなら（住民の）見方も違うのではないか。迷惑施設ではないと感じた。施設内も綺麗であったし、全て一元化されて処理されているので、これだけ大手のメーカーが社運を賭けて技術開発をして設置をしているのでそういう意味では近代的な処理施設だと感じた。ただ糸満（市）の問題、やはり南部は一つという前提があるので、サザン協だけで造るのはどうも現実的

ではない気がする。糸満の動向が気になる所だが糸満を巻き込んだ形でやっていかないと、那覇・南風原方式を取るにしてもゴミの絶対量が足りない。施設の規模もそうだが、是非糸満を加えての方式が望ましい。既存の東部・島尻・糸豊の3施設の関連も気になる。機種選定の問題だが、部会の中に学識経験者を入れてはどうか。メーカー、技術関係の職員を加えるといったほうがいい。日程的に厳しい日程になっているが、果たしてこのスケジュールどおりに出来るかという疑問もある。逆算して無理に合わせたような格好になっているので事務局も大変だろうが、我々も協力し合って早い時期に目処付けをやっていかないといけない。そしてゴミの問題、以前も出ていたが各町村協議会を立ち上げて、ごみ減量の計画をしてこの問題に関心を持ってもらう。行政の仕事になると思うが、色んな機関、関係する市町村で並行してこの問題を考えていきたい。

⑪委員

- ・全体的に焼却、不燃、粗大ゴミ、資源ゴミ等々一貫して各地区処理している。出来れば我々もそういう形が出来ればという感がある。同時に処理方法としては焼却灰を溶融炉に入れて、スラグ、飛灰という形で、メーカーは違っても、そういう形で流れて行って、スラグについては公共事業にも使われているという事で、各施設とも苦労はしてない。ただ飛灰については各組合で処理するか、或いは輸送して製鉄所で処理をしてもらうなど、その辺は今後検討する余地があるのではと思う。浦添、那覇市については財源、財政規模、ゴミ量等あるので、南部がどの位の量になるか勘案すれば、規模も出てくるのではないか。

⑫委員

- ・海のものとも山のものとも言えないが、焼却灰をある薬品を使って中和してしまう、無害化して、セメントの強化をする材料にしようと。セメントの酸化を抑える要因として使う。という報告会が南城市である。方向性が見えた時点で市長はいけそうなら隣町村の職員等にも説明をして行きたいと言う事である。

⑬委員

- ・視察した施設は大変素晴らしいものであった。ただ、言える事はサザン協が抱えている問題は各々3つの焼却炉を持っているので残渣をどう処理するかが一番の問題ではないか。今回見たものについては焼却炉と溶融炉が一元的な処理をしている。これが今（既存の）3つの焼却炉から出てくる残渣をどう処理するかの中で溶融炉だけ別に造って、コストの問題、熱の問題。焼却炉にゴミ入れる熱と溶融する場合の熱と全然違うはずである。そういう場合どうなるかという部分、そこら辺課題があると思う。被覆型の最終処分場を見たときは、すぐ近くに住宅があってもなんら迷惑施設では無いと考えた場合、現在3施設が稼働してる中で、（直接溶融）施設を持ってきていいのか疑問がある。（ランニングコストの問題等）糸豊の工場は（能力が）160tであるが、焼却しているのは半分の80tしか稼働していない。そういう意味でキャパは十分にあるので、その辺も十分議論して本当に溶融炉が必要かどうか真剣に考えないと財政の厳しい中で今後の維持管理、色んな部分を考えて将来に悔いを残さないように、例えばの話だが、糸満を巻き込めるなら島尻が基幹改良入る時に島尻の分（のゴミ）を燃やす。で、今は被覆型の最終処分場がコストがかからないのでそれを造って残渣は当面はそこで処理して、後は全体的な部分を統合して、他市が持っている素晴らしい焼却も灰溶融も一緒になった部分をやる必要がないか。そこら辺、

今私達が困っているのは残渣、今は倉浜に持って行っているが、喫緊の課題は残渣をどう処理するかなので、そこら辺が今回見た施設が今後の維持管理していく中でいいかというのは慎重に考えないといけないことで、やはり都城の部分も検討に値するんじゃないか。今後の問題として先程からあるように、糸満市は今はいろんな事情があるが、その辺も含めて向こう（糸満市）を抜いたままでいいのかは慎重に議論しなければいけないが、しかしこの（残渣の）問題は避けては通れない喫緊の課題であり、最終処分場の問題をどうするかは議論をしなければいけない。ただ、言えることは（今回）見た施設は大変素晴らしい、迷惑施設ではない、と言い切れるぐらいの素晴らしい施設ではあるけれども、それを造れるかといった場合においては慎重に検討すべきだと思う。

⑭部会長

- ・各委員の報告の中で一様に指摘されていたのが、一つは財政コストの問題。厳しい財政下における負担軽減が提起されている中で溶融炉という莫大にコストのかかる施設をこのサザン協が採用していいものだろうか、慎重な検討が必要であるとの指摘があった。それから温暖化対策の推進が声高に世界的に叫ばれているが、この見地からしても溶融炉は燃料の3倍のCO2を発生するというふうにも聞いている。それからすると、今の時代のニーズに合っているのかと個人的には思う。與那嶺委員からあった無害化する技術が新しく開発されたという点でローコストのなおかつ時代のニーズにあったものが何とか出来ないものかという気もしている。いずれにしろ、時間は切迫しており、その時間は事務局の想定であると思うが、8月になると通常次年度の予算を取りまとめる時期になっている関係で、そのあたりまでにはまとめたいということだろうと思う。どのオプションを選択するかによってスケジュールも変わってくるだろうと思う。委員の皆さんも慎重なご検討をお願いしたいと思います。

2. 8月のスケジュールについて

・資料－2の通り確認した

【理事会との合同会議の開催】

日時:平成19年8月9日(木)

14:00～16:00	第1部会会議
16:30～17:30	理事会・第1部会合同会議
18:00～	懇親会